

犠牲者ゼロを実現するために

江東5区は、連携して大規模水害の対応方針をとりまとめました。



第2回江東5区大規模水害対策協議会

江東5区大規模水害避難等対応方針（平成28年8月策定）要約

広域避難の推進

大規模水害が発生する前に全ての区民が安全に浸水域外に避難することを理想として、広域避難を基本とした避難対応を推進します。

早期避難の実現

大規模水害の発災3日前を目安に江東5区が共同で検討を開始します。また、発災1日前に広域避難を促す情報を発表することを目指します。

垂直避難者の被害低減

※ 浸水域にとどまった人

垂直避難者*の被害を最小限に抑えるために、家庭での備蓄と避難時の携帯の徹底、脱出用ボート等の準備、救出のための関係機関との連携を進めます。

大規模水害の理解促進

江東5区の水害特性と早期の広域避難の重要性について、広く理解が得られるように様々なPR活動に取り組みます。

対応方針の全文や関連情報は、各区のWebサイトからご覧いただけます。

今後の取り組み

広域避難の具体化に向けた課題について、**江東5区広域避難推進協議会**（平成28年8月設置）で検討を始めています。

課題

- 1 膨大な避難者に対応するための**広域避難先の確保**
- 2 **広域避難時の渋滞や混乱の発生を避けるための誘導**
- 3 お年寄りや病人など、**広域避難が困難な人達の支援**
- 4 **広域避難が遅れて浸水域に取り残されてしまった人の対応**

江東5区の大規模水害を考える

「いざという時」は、
次の台風かもしれないかもしれません



地球温暖化の影響で巨大台風の襲来が増加

巨大台風は、遠方にある段階から大雨をもたらし、接近するにつれて暴風や高潮なども起こして、大規模な水害を生じさせる危険性があります。

大規模水害により深刻な被害が発生

大河川に囲まれ、臨海部の低平地に位置している江東5区は、洪水や高潮などの外水氾濫によって広い範囲が深刻な浸水被害を受ける危険があります。

大規模水害時に江東5区で求められる対応とは？
中面を見てみましょう。

大規模水害時^{*}に区内にとどまるのは危険です。安全を確保するためには、区外など浸水の危険が少ない地域への「広域避難」が必要になります。

^{*}長雨などによる荒川の洪水と東京地方への伊勢湾台風級（中心気圧 930hPa）以上の台風の襲来による東京湾の高潮が同時期に発生する事態



避難が遅れると・・・危険!
強風や渋滞により避難できなくなります。台風上陸の1日前には避難を開始

近くに避難しても・・・危険!
江東5区のほとんどの地域が浸水します。江東5区は海面より低いゼロメートル地帯

区内の避難所に避難しても・・・危険!
大規模水害時には浸水してしまいます。江東5区の避難所の多くが浸水

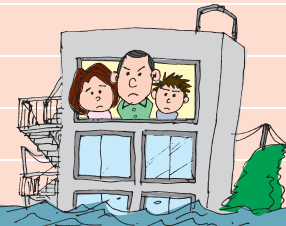
避難せずとどまると・・・危険!
ライフラインの止まった環境で長期間孤立するかもしれません。最悪2週間以上孤立



大規模水害に備えるための4つのポイント

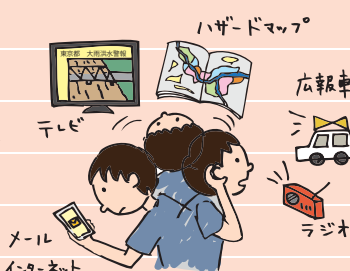
1 広域避難の必要性を知りましょう。

約260万人の人が暮らす江東5区では、大規模水害から全ての人の安全を守る場所を区内に確保することができません。また、低い土地が多く氾濫した水が引きにくいいため、マンションなどに避難しても電気や水道などが途絶えた環境で長期間孤立してしまう危険があります。大規模水害から安全を確保するためには、区外などへの広域避難が必要になります。



2 正しい情報を入手しましょう。

大規模水害時に適切な対応を行うためには、正しい情報を入手することが大切です。台風が近づいている時は、テレビやラジオなどからの情報に注意しましょう。また、いざというときに災害情報がすぐに入手できるよう、事前に情報の入手方法や各区のハザードマップ、防災のホームページを確認しておきましょう。



3 十分な備蓄を心がけましょう。

避難先に十分な物資が用意されているとは限りません。自宅でも食料や飲料水などの備蓄を徹底して、避難する際には携帯するようにしましょう。備蓄品は、万が一逃げ遅れてしまった場合にも役立ちます。簡易トイレなどライフラインの途絶に備えた生活・医療・防災用品の備蓄も行いましょう。



4 家庭や地域で対応を話し合ひましょう。

避難先や避難先までの移動方法など、家庭で大規模水害時の対応を相談しておきましょう。また、地域や集合住宅などでは、共同での備蓄や緊急時の対応など、地域で助け合うことについても話し合っておきましょう。

